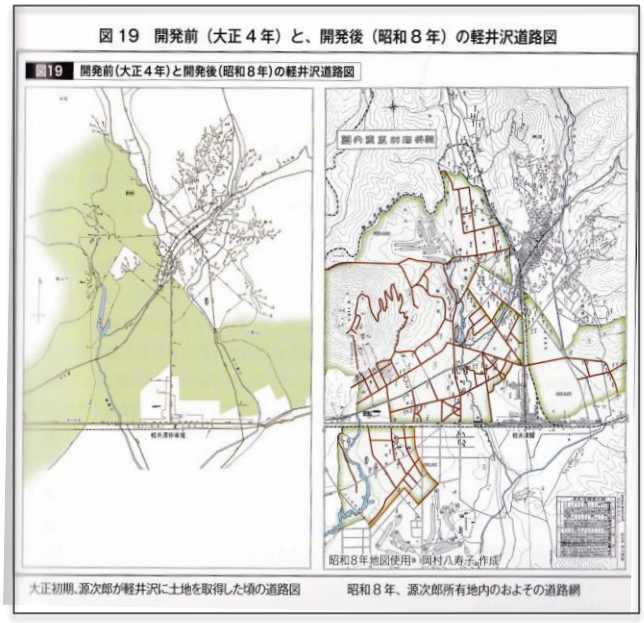
軽井沢シンフォニックコーラス
TUTTI 第５２号
2025.03.28

見てきたような旧軽別荘地開発史　其の三／七

扇状地のインフラ整備と別荘建築

白枝 庸介（ バ ス ）

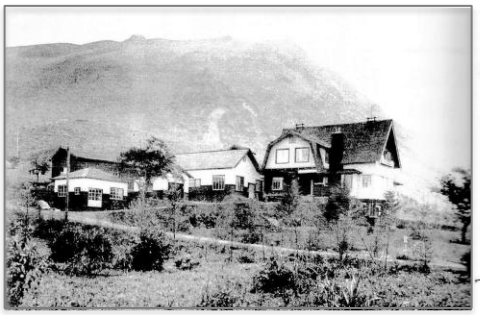
大賀ホールを起点とした私のウォーキング。西方「泉の里」コースでは東小学校前の 旧中山道を通りますが、その向いの元・早稲田大学グランド先の離山麓にはかつて大隈重信別邸が聳えていました。その奥の坂下の門には「川田」の表札が今も掲げられています。また、北北西「鹿島の森」コースには近衛家や鳩山兄弟の別邸がある他、徳川慶久公爵（慶喜七男）と徳川圀順公爵（水戸家十三代）の洋館も現存します。一時は田中角栄が所有した圀順邸の隣は広大な細川侯爵（熊本藩主末裔・細川護熙元首相の祖父）邸でしたが、昨年 大手空調機メーカーの保養所が新築されました。



大正４年 川田男爵から扇状地の地権を譲り受けていよいよ野澤の別荘地開発が始まります。野澤は本多清六の計画理念や後藤新平のアドバイスを念頭に百年先を見据えた「世界に通用する理想的な別荘地」を目指しました。インフラ整備を請け負ったのは（軽井沢唯一の）後藤工務所でした。後藤工務所は鉄道駅舎工事の為に新潟から来軽した初代が創設。明治２３年の英国公使館をはじめ外国人別荘を多数建設したようですが、野澤の別荘地開発では一日あたり数百人の職人を動員し、道路普請・区画整理・宅地造成・井戸掘り等のインフラ事業を２年という短期間で成し遂げました。

宅地が完成すると次は建物ですが、これはアメリカで西洋建築を学んだ橋口伸助の「 あめりか屋 」が一手に請け負い、野澤の事業パートナーとして活躍します。それまでの宣教師別荘は暖炉やベランダ等はあっても所詮は棟梁による擬洋風であったものが あめりか屋 は本格的な西洋建築であり、欧米に通じた裕福な施主たちは競って豪華なものを建てました。例えば大隈重信の別邸は離山の麓に建つ大きな洋館と数寄屋建築の二棟建てで、新築当時は周囲に樹木も少なく軽井沢駅からもよく見え、名所

の一つでした。余談ながら、大隈別邸に避暑滞在中だった摂政の宮（後の昭和天皇）は野澤を召され、軽井沢開発の功績をお褒めになった由。また、細川護立(ほそかわもりたつ)侯爵と徳川圀順公爵は仲良く二人で相談し（後の旧ゴルフ場隣の）丘陵数㌶を購入し、立派な洋館を建てました。野澤は普請した道路の殆どに街路樹を植えましたが、細川邸に向かう道には桂を、大隈邸前の「大隈通り」にはユリノキを植え、現在それぞれ巨木の並木となっています。



■大隈重信別邸



徳川慶久公の別荘図



■細川護立別邸

大正７年には第一次世界大戦の戦勝景気によって行楽に拍車がかかり、軽井沢の名が飛躍的に高まった結果、避暑客数は外国人 1,550 人に対して内国人が 1,962 人に急増し外国人を上回りました。そこで富裕別荘族の増加に目を付けた東長倉村（軽井沢町）は大正１１年より別荘税を課し始めます。税額は建築面積一坪当り 建物等級別に30銭から2円で、結果 村の全歳入６万８千円のうち別荘税収が１万円（全歳入の 15%）にのぼりましたし、その収入は対応する恒常的支出の無い“美味しい歳入”でした。そして当時の高額納付者には ① 野澤源次郎、② 近藤友右衛門(こんどうともえもん)（別荘地開発のもう一人の主役：後述）③ 根津嘉一郎(ねづかいちろう)(東武鉄道創業者)、④ 三井高修(みついたかなが)(小石川三井家・実業家)、⑤山本直良(やまもとよしなお)(三笠ホテル創業者)、⑥大隈重信、⑦星野嘉助 らが上位に名を連ねました。

現在の軽井沢町が財政自立団体である主要因は１万６千棟 別荘の固定資産税収入にあり、財政力指数は全国トップレベルの優良さです。しかし優良さが一方の低い固定費支出、特に人件費に依るのであれば、人財の確保や育成の面で感心できません。議員報酬額にもビックリですが、中堅までの若い世代の給与を引き上げて県内外や首都圏からも多彩な人材が集まるようにし、経済産業省などに育成目的で出向させるなどすれば将来に夢も脹らみます。また２万千人余の町民だけでなく“軽井沢と積極的に関わろうとする”１０万人規模の「関係人口」を人材資源として意識すべきですし、特に文化・経済に専門性や人脈を持つリタイア世代を政策アドバイザーとして招聘するのも有意義です。行政が主導すべき地方の基礎自治体にあって縮小均衡の政策では未来は開かれません。人材投資を行い『東京２４区』と言われるポテンシャルを農業・観光に次ぐ 文化産業 の創造に活かしていただきたい。　ガンバレ！　かるいざわまち

アラスカ紀行　②

― 私のアラスカ：脳裏に浮かぶ思い出 ―　　小松 照幸（ベース）

今年の３月で傘寿になり、半世紀以上の時を経て脳裏に浮かぶアラスカ暮らしは、すべてが懐かしく切なく、また鮮明な思い出ばかりです。２０代の半分を過ごしたアメリカ留学は、一部オレゴン州を含め大半はアラスカ暮らしでした。あれから半世紀以上の時を経て、改めてアラスカについて考える機会を頂き感謝します。

アラスカへの旅は空路が一般的ですが、海路と陸路の方法もあります。日本からの空路は、バンクーバーやシアトルを経由しアンカレッジへ行く方法と、もう一つはアンカレッジへの直行便です。それに対してアメリカ国内からは、陸路か海路が可能です。海路は、シアトル或いはバンクーバーから、アラスカのヘインズまで大変立派な客船の旅があります。私も一度このルートでアラスカからシアトルまでの海路を楽しみました。

その折、スイスから旅行中のレディーと船内で知り合いお喋りをし、驚いたことがあります。それは、彼女の英語学習が、どの位の時間で自由に話せるようになったのか聞いてみると、なんと”大体、一週間くらい“という答えが返ってきました‼ 日本人は何年もかかって英語を勉強しても、簡単には自由に話せないのに、、、、です。この船旅は美しいカナダの太平洋側に沿って自然豊かな内海（inland sea）を通り、途中の海沿いの町々に寄港する、大変優雅な１～２泊の旅でした。

もう一つの陸路は大変なアドベンチャー旅です。私自身いまだチャレンジできないまま時が過ぎてしまいましたが、それはシアトル、バンクーバーから、長大なアラスカン・ハイウエイを車で走破する方法です。シアトルから出発すると、すぐにカナダ領に入り、終点は再びアメリカ領のデルタ・ジャンクションに至る全長約２２００キロの旅です（北海道から九州までは約２５００キロ）。この道は当初、第二次大戦が始まり日本軍のアリューシャン列島への進軍に対処するため、アメリカ軍が突貫工事で開拓した未舗装のワイルド・ロードだったようですが、現代では通年で通行可能です。

今日でも、この道は自然豊かでワイルドなアドベンチャー・ロードに変わりはありません。雄大なアラスカを体感する為には、このアラスカン・ハイウエイを走破しなければ、幾つか条件のある“sour dough”（サワドー・アラスカン）とは呼ばれないでしょう。Sourdoughとは、少し酸っぱいパンで、古株のアラスカ人に愛されたパンです。かように最後のフロンティア―と呼ばれるアラスカへの旅は、実に多様で魅力的な道程が存在します。

　それでは少し視点を変え、国土の大きさを実感したいと思います。まずアメリカは日本の何倍でしょうか？　また、アラスカ州は日本の何倍の大きさでしょうか？答えは、アメリカが２６倍でアラスカは４倍弱です。ついでに日本とロシア、カナダと比較すると、ロシアは４５倍、カナダはアメリカ同等の２６倍です。これら世界でも広大な国土を持つ国々と比較すれば日本は小さく見えますが、わが国の国土は世界６１番目で、ヨーロッパの国々と比較しても決して小さな国ではなく、GDPでもトップにランクされる意外と大きな国であると思います。
アラスカの国土は実に３分の１が北極圏にあり、その面積は、５７万６百平方マイル（１４７万８千平方キロメートル、２０１０年国勢調査）と、アメリカ全州の中では最大規模で、アメリカ総面積の１６％に及び、２番目に大きいテキサス州の２倍強です。

人種構成は、白人 66.9%、 先住民 22.5%、 ヒスパニック及びラテン 6.7%、アジア 3.9%、黒人 9.1% となっています。(2010 年 米国国勢調査局)　広大な国土に対し、極めて少ない人口です。最後のフロンティアと言われる国土の整備された道路システムも極めて限られているため、その補完システムとして海路や空路が頻繁に利用されています。

７０万強の人口の内、主要都市は首都ジュノーと経済の中心であるアンカレッジ(人口約３０万)、そして内陸のフェアバンクスの３都市に限られ、殆どの村々へはフェアバンクスとアンカレッジを結ぶ国道沿いか、アンカレッジとキーナイ半島の国道沿いなどに限られます。海沿いの村々や内陸の辺鄙な場所への交通手段は海路か空路に限られます。

この地の人種的特性、地理的特性、言語的特性は重要な視点ですが、まず人種的にはエスキモー、内陸インディアン、アリュウシャン人、本土からのアメリカ人などが住んでおり、２０２４年の人口は７０年前の２９万人(1950)から現在は７３万人強(2023)となっています。これを実感として理解すると日本の４倍もある国土に東京都世田谷区民の総数（約９３万人）より少ない人々が暮らしている状況なのです!!
但しこの統計は定住者の数であり、それには含まれない移動性の高い大勢の季節労働者が存在します。

アラスカ居住者には、ネイティブ（Native)、サワドー（Sourdough）あるいはニューカマー（New comer）と呼ばれる人々がいます。Native とは、歴史的に土着の人々であり、サワドーとは、東北人とか東京人とかの意味で「古株」とでも言いましょうか。短い夏には、沢山の季節労働者と世界中から観光旅行者が訪れ、この地は人種的にも文化的にも実にユニークな最後のフロンティアです。



Map of Alaska Cities/Towns

　ここまでアラスカについて語ってきましたが、少し視点を変え、１９６０年代の留学体験からアメリカ人気質について触れてみたいと思います。

厳しい大学の授業とは別に、授業のあと午後のひと時にカフェテリアへ行き、ほっと一息入れ、親しい友人達と人生についてたくさん対話をしたことは、留学中もっとも楽しい時間でした。　文化の違い、人種の違い、思考や価値観の違いを認識しつつ、６０年代アメリカの若者たちのダイナミックな考えや生き方には目を見張るばかりでした。

彼らから学んだのは、まず日本的な社会通念とは違い、職業選択に対し大卒後すぐ職業につくのでなく、可能であれば、まず自分自身を見つめるため広い世界へ旅をすることが当たり前のような雰囲気でした。広大なアメリカの国土で、住む場所を自由に選択し、何のためらいもなく移動するのは個人の自由と高い移動性と言う国民性であると感心しました。

日本人とアメリカ人の国民性や世間常識などについて「ことばの文化」から次のようなことを考えました。

まず日常生活で自分の思考と行動を働かせるのは母語ですから、日本語のどの部分が世間的常識の基盤として作用しているかを考えると、それは性差（Gender Difference）（2）社会的立場（Social Position）（３）年齢差（Age Difference）などの点で顕著であると思います。日本社会の永い歴史の中で、我々が積み重ねて来た

日常語を（１）から（３）に関係する類語を拾い集めて検討すれば、中々面白い社会的な共通意識が現れてくるようです。

それを考えるために、日本語の自己意識である「私」という言葉から考察してみたいと思います。日本語には多様な「私」の類語があり、その言葉使いの背景にある意識には、(１) 自分は男か女か (性差)、(２) 子供か大人か、どんな職業か、学歴かなど (社会的立場) (３) 赤ちゃんか老人か (年齢差) などの社会的な意識が顕在されます。そもそも「私」とは、社会の中でどんな立場にあるのかを意識するのはどの文化でも重要なことですが、それを表現する言葉として、日本語には俺、僕、わし、あたし、など、その数は死語も含めて恐らく２０語以上有ります。それと比べて英語の「私」は「I」と言う一語だけです！！何と言う相違でしょうか。

アメリカ人 の世間常識としての性差、社会的立場、年齢差に対する考えの元には、“ I and you are equal ” と言う人間同士の平等意識が強く意識されているので、その結果日本人ほど自分の社会的立場への気遣いは無いように思われます。もちろん国際化の今、また、世界中の人々が地球上を自由に行き来できる時代ですから、古い時代のしがらみは薄れ自己表現の変化も国籍を問わず多様で個性的になってきていることも事実でしょう。　時代は激しく変化し日本人の世間常識としての言葉使い、振る舞いも随分多様になってきました。

今回の締め括りとして日々思うのは「戦争と平和について」です。我々人間にとって２１世紀は普通の人々が望めば世界を自由に旅することができる世紀であり、心から望み努力すれば、自分の国 (母国) と住みたい異国の両方を選択できる素晴らしい世紀です！　それにも拘わらず、現下のウクライナとロシアの間で起きている大量殺戮 (戦争) は 第一次と第二次大戦で起きた領土争いから何も学ぶことのない、何と愚かな**「時代錯誤」**でしょうか。良き人々の国際移動は領土に対する覇権争いではなく、それぞれの文化を豊かにします。平和な国際移動、そして豊かな相互依存の保障こそが、２１世紀、政治のリーダーシップの有るべき姿と心から願わずにはいられません。大戦後、戦後反省の総括として国際連合 UNESCO 憲章が起草され、その大切なことばをず〜と考え続けています。「戦争は人の心から始まる、、、」と！

・・

{参考までに} －アメリカの大学システムについて

　アメリカの大学は日本と比較すると、幾つか大きな相違点があり、学期制度は一般に 9 月から翌年の 5 月までの 9 カ月間を 1 学年度 (academic year) としています。

6〜8 月は夏休みか夏学期 です。1 学年間 (9 カ月間) を 2 期に分けるのがセメスター (semester) 制で 1 年間 (12 カ月間)を 4 期に分けるのがクオーター(quarter)制です。他にも 4-1-4 制 (一学年度を 3 分割し、その間の一か月は特色ある学習プログラムを組む) などもあります。

毎学期、科目登録はフルタイム学生とパートタイム学生で状況は異なりますが、フルの場合は取得科目の上限は大体４〜５科目までです。日本の大学では、毎学期かなりたくさんの科目を登録しますが、アメリカの大学では一科目に対し必ず必要な予習時間が規定され、科目ごとにきちんと予習復習をしなければ授業についていけません。また、課題宿題も相当な量になります。

学習を疎かにし、一学期の成績が不可ライン(GPA, Grade Point Average, 2.0/4.0 未満、GPA2.0 とは 100 点満点のうち 70 点の成績) になると、大学から警告書が送られ仮及第の扱いとなり、次学期に続けて不可ラインになると、放校処分になります！　英語が母語でない留学生でも同じ処分を受けますので、英語のハンディキャップのある留学生は、ネイティブのアメリカ人学生と比べて倍の学習努力が必要です。

もう一つの違いは、日本の様に入学時に専攻分野を決める必要は無く、編入や転校も自由です。但し一部の例外として、医学部や建築学部など極めて専門性の高い分野は例外です。専攻分野は１〜２年生の教養課程の間に自分が望む分野をじっくり考え、３年生以降に希望する専門分野の基礎科目を取得して、その分野が自分の希望する分野ではない場合には、比較的簡単に専攻分野を変えることもできます。日本でも転学、転部は可能ですが、その手続きは大変手間が掛り簡単ではありません。

短期大学あるいは総合大学で最初の 2 年間教養課程を修了すれば、より評価の高い大学へ編入、進学が可能となり、その際の大学選択はアメリカ全土で自由に選ぶことができます。編入の入学審査基準は、総合成績 (GPA, Grade Point Average) と万遍無い基礎教養科目の取得が必須条件ですが、留学生の場合は学業成績、経済力に加えて高い英語能力が要求されます。

そういう訳で、非英語圏や漢字圏からの留学生にとって、アメリカの大学で学ぶには学力、経済力、そして高い英語力という厳しい入学条件がありますが、学問選択の自由度、転校の自由度、そして質量ともに豊かで優れた教育内容は大変魅力的です。ちなみに、日本の 4 年生大学数は約 800 校弱でアメリカは 4 年制大学で約 2300 校と、約 3 倍です（２０２０年統計）。

【編集後記】 TUTTI は合唱団の文集だったはずが、なんとなんと、これは夏期大学教養講座でしょうか!? アラスカンハイウェーのところどころをグーグルマップで見てみようかなとワクワク。 遠いアラスカには行けませんが、旧軽別荘地散歩は今日にも行けます。 白枝さんにガイドしていただいて、シンフォお散歩隊を結成しましょうか？（岡田）